

信濃町国際学生寮(仮称)

SHINANOMACHI INTERNATIONAL STUDENT DORMITORY

No. 21-014-2017作成

新築
寄宿舎

発注者	学校法人上智学院	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	株式会社フジター級建築士事務所		E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
デザイン監修	光井純アンドアソシエーツ建築設計事務所株式会社		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	
施工	株式会社フジタ東京支店					

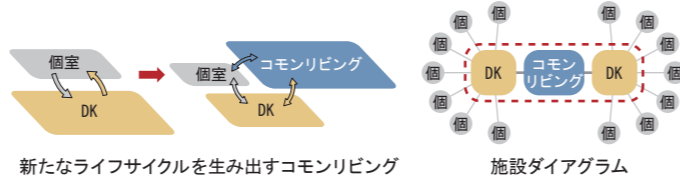
SPACE TO GLOW — グローバル人材が育つ場所



建物外観

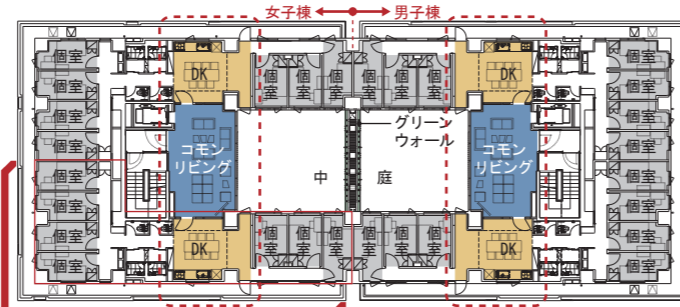
本計画は、大学教育のグローバル化を牽引する上智大学の国際学生寮である。四ツ谷キャンパスより徒歩15分、JR信濃町駅前の都心一等地に位置する。「SPACE TO GLOW — グローバル人材が育つ場所」をコンセプトに、国籍・宗教・性別等の垣根を超えて多様な価値観を認め合い、「学び」を享受できる新しい学生寮として計画された。

本寮では、従来型のシェアタイプ住戸(nLDK連立型)において住戸単位で分断されていたコミュニティの境目を払拭することを試みた。その核となるのが、「コモソリビング」である。コモソリビングは、複数の住戸で共有する共用空間であり、各住戸の中心に位置するように配置した。また大開口カーテンウォールに面した2層吹抜の空間とし(立体的な繋がり)、隣り合うDKとはガラス壁によって区画する(水平的な繋がり)。それにより、寮生はどこにいても互いの様子を感じる事が出来、住戸の垣根を超えた大きなコミュニティを創る仕組みとなっている。



新たなライフサイクルを生み出すコモソリビング

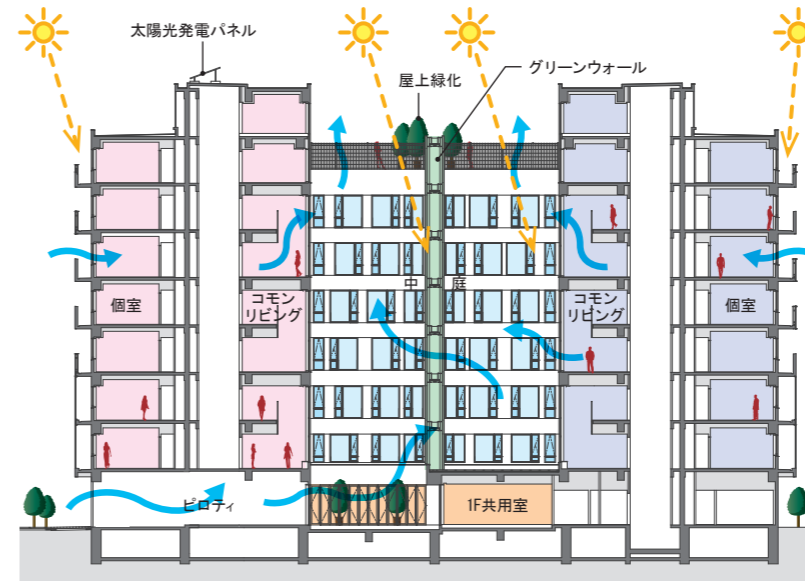
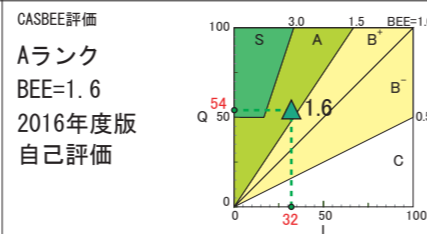
施設ダイアグラム



施設構成

建物データ

所在地	東京都新宿区
竣工年	2019年(予定)
敷地面積	1,242㎡
延床面積	4,963㎡
構造	RC造
階数	地上9階



中庭空間(エコポイド)



コモソリビングよりグリーンウォールを望む



2層吹抜のコモソリビング



「自然」をテーマとしたインテリア計画

設計担当者

統括: 増山哲也 / 建築: 平野千春、柴田麻衣子、宮田奈都子 / 構造: 前田卓也、西川葉志乃 / 設備: 上田男、東愛子、荒木香名、村田峻平、小島郁人
デザイン監修 / 守屋良則、信田匡康、門間正彦

主要な採用技術(CASBEE準拠)

- Q2. 1. 2. 3 内装計画(明確なコンセプトを基にしたインテリア計画、モックアップ・パースによる事前検証の実施)
- Q2. 1. 3. 2 維持管理機能の確保(絶壁面において光触媒塗装の採用)
- Q3. 1 生物環境の保全と創出(屋上緑化、壁面緑化(グリーンウォール)の採用)
- Q3. 2 まちなみ・景観への配慮(外装材に対し地域に調和する木調素材の選定、隣接する公園からの良好な景観形成)
- Q3. 3. 1 地域性への配慮、快適性の向上(施設運営者・維持管理者の設計プロセスへの参加)
- LR1. 2 自然エネルギーの利用(太陽光発電パネル、自然通風・換気、快適な光環境の創出)

限られた敷地で、良好な住環境を確保するエコポイド
当建物は、中心に風の通り道となる大きな中庭空間(エコポイド)を有している。限られた敷地の中で、良好な居室空間を確保するために、光・風の通り道をつくる取り組みである。建物下部には、風の取入れ口を設け、自然に重力換気が行えるようにしている。また、中庭空間の中心には、つる植物をメインとしたグリーンウォールを施す。男女間の視線の交差を緩やかに遮断しながらも、光・風が通り抜けるデザインとしている。雨水溜水設備の利用で維持管理の軽減と省エネを図る。

木調素材・屋上緑化によるバイオフィリアデザイン
外装は、アースカラーを基調とし、木目調タイル・木目調塗装・杉板型枠コンクリート等の木調素材を全面的に採用し、自然の風景を演出している。屋上テラスには一部緑化を施し、屋外での寮生の憩い・交流の場を創造するだけでなく、周辺環境の良好な景観づくり、都心のヒートアイランド現象への低減にも配慮する。緑豊かな上智大学キャンパスのイメージを踏襲し、インテリアにも「自然」を基調とした内装・照明デザインを展開する。

DCP(Dormitory Continuity Plan)への取り組み
当寮は、「災害発生後、72時間自立生活ができる」ことを基本コンセプトとし、各種防災計画を行っている。具体的には、非常用発電機・太陽光パネルの設置、災害拠点となる1階共用室への電源供給、1階のみポンプ不要な直圧給水方式の採用、また防災備蓄品の種別・数量・保管場所の最適化などを行っている。設計段階より、施設運営者・維持管理者を含めた包括的な施設計画を行っており、災害時の行動マニュアルを作成して計画に織り込むなどの工夫を行っている。



グリーンウォール



木彫素材(外装材)



景色を一望できる屋上緑化テラス